

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2002-1008	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク計画参加者 全員 試料:なし 情報:基本情報、家系情報、調査票情報、生理機能検査情報、検 体検査情報、特定健康診査情報、ゲノム情報		
主たる研究機関	岡山大学学術研究院医歯薬学域			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構		
研究題目	遺伝性腫瘍症候群におけるがん発症予測モデルの開発				研究期間	承認日～2025年3月	
TMM 実施責任者	荻島 創一	所属	東北メディカル・メガバンク機構			職位	教授
共同研究機関 実施責任者	谷岡 真樹	所属	岡山大学学術研究院医歯薬学域			職位	准教授
研究目的と意義	<p>がん患者さんの約 5-15%は生まれつき特定のがんになりやすい体質(遺伝性腫瘍症候群と呼びます)を持つことが分かっています。遺伝性腫瘍症候群の方に対し、適切なサーベイランス(遺伝子の特性に応じてきめ細く行う定期的な検査)やリスク低減処置を行うことで、がんの早期発見・早期治療あるいは、がん予防につなげることができる可能性があります。一方で、同じ遺伝性腫瘍症候群の方でもがんの発症年齢や頻度が異なることが知られており、個別の家系や個人としてのがん発症リスクを予測するツールやモデルの開発が望まれています。</p> <p>そこで、本研究では中央西日本遺伝性腫瘍コホートに登録された遺伝性腫瘍症候群の方と東北メディカル・メガバンク計画の研究に同意された方を対象に、遺伝情報、家族歴、疫学情報などを収集・解析することでがんの発症を予測するモデル開発を目指します。</p>						
研究計画概要	中央西日本遺伝性腫瘍コホート研究および東北メディカル・メガバンク計画の大規模コホートに登録いただいた方について、研究者が診療情報や家族歴、遺伝情報、疫学情報などを統合的に分析し、がん発症予測モデルを開発します。						
期待される成果	個別の遺伝性腫瘍症候群の例についてがん発症予測が可能になれば、サーベイランスの頻度やリスク低減手術の施行時期の設定をはじめとしたさらなる個別化医療が実施できると考えています。						
これまでの倫理 審査等の経過	2022年7月 岡山大学倫理委員会承認(中央一括審査)						
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	研究は、人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針及び別途締結する研究契約を遵守して実施します。利用する試料・情報は、個人が特定できないよう加工し、東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピューター上で、共同研究機関の岡山大学へ提供するとともに、許可された研究者のみがデータにアクセスして解析を行います。また、岡山大学からのアクセスは、高度なセキュリティが担保された遠隔セキュリティエリアから行われます。						
その他特記事項	岡山大学大学運営費交付金、奨学寄附金、医療AIプロジェクト補助金(文部科学省)						

※ 公開日 令和4年9月2日